

## 商店街の イベント 情報

大型ポスターで  
商店街のイベントを  
お知らせしませんか！

区内の商店街イベント情報を「商店街イベント info」に載せませんか？2ヶ月毎に区内の駅やバスの車内にて、商店街のイベントをご案内しています。また、協会 HP 等でも、イベント情報をご紹介します。

情報、お待ちしております！

お問合・お申込 ☎03(5722)6850 めぐる観光まちづくり協会



## めぐる ボランティア ガイド

観光講座も12回を数え、大変好評を得ています。また、区外からは、団体のお客様が多く訪れています。そんなお客様をお出迎え、ご案内しているのが「ボランティアガイド」の方々。

ご案内にあたり、日頃より、めぐるに興味を持ち、勉強をいただいています。いわば「めぐる博士」な皆様です。職業も経歴も様々で、ガイド経験もなかった方も多くいますが、ボランティアガイド研修会や茶話会など、様々な形で研修を行いながら、日々、めぐるの知識を高め、めぐるの街をご案内してくださっています。



ボランティアガイドの石森さん(左)と井上さん(右)

## いけばな ×百段階段

~5月19日  
※月曜日休館  
当日 ¥1,200  
目黒雅叙園

〈総合不動産〉  
売買 賃貸 管理 駐車場

## 株式会社 大丸

http://www.daimaru-re.co.jp  
☎本店:3710-1151 駅前店:3760-1411

学芸大学で1946年創業いたしました。地元に着した不動産屋です。学芸大学駅に2店舗、東横線沿線を中心に物件のご紹介を行なっています。売買・賃貸・管理、駐車場の事なら何でもご相談ください。

めぐる EYE's Vol.07 編集・発行 めぐる観光まちづくり協会

〒153-0051 東京都目黒区上目黒2-1-3 中目黒GT地下1階  
TEL:03(5722)6850 FAX:03(5722)6891 E-mail:staff@meguro-kaniko.com  
http://www.meguro-kaniko.com

# めぐる EYE's Vol.07

行人坂と大円寺

# 地域歴史探訪





# 行人坂大火



「目黒行人坂火事繪」  
提供：めぐる歴史資料館

## 江戸三大大火の一つ、メイワク年の大火

**大** 円寺が歴史に大きく登場したのは、江戸三大大火の一つ「目黒行人坂の大火」の火元としてでした。時は江戸中期の明和9年(1772)2月29日。江戸市中から目黒不動に至る主要な道であった行人坂の大円寺から火の手があがったのです。寺の失火というよりは放火によるものだったといいますが、大円寺にとっても江戸市民にとっても突然の悲劇でした。折からの強風に火は次々と燃え広がり、麻布、虎の門、日比谷門や和田倉門、江戸城の一部も焼き、日本橋、神田一带、上野からなんと千住辺りまで延焼、江戸八百八町のうちおよそ六百三十町を焼き尽くしました。焼死者は数知れず、数千人とも一万人以上とも伝えられています。そのため、人々はこの明和の9年を“メイワクな年”だと盛んに噂し、元号を安永と改めざるを得なかったのです。

## 犠牲者供養の石仏群が並ぶのみの時代

**そ** してここから大円寺にとっての不遇の時代が続くこととなります。というのも、火元となった大円寺は70年以上後まで再建を許されなかったのです。焼失を免れた仏像は、風上で無事だった隣の明王院(現・目黒雅叙園)に預けられ、寺の跡には、大火の死

者を供養するための石仏群「五百羅漢像」が造立されました。1800年代に刊行された、江戸の名所を絵入りで描いた「江戸名所図会」にも、坂下の明王院の堂宇はありますが、大円寺の境内にはただ五百羅漢像がぎっしりと並ぶばかりです。しかしこうした時代にも、目黒不動への途中などに五百羅漢像を詣で、火事による死者を悼む人々も少なくなかったでしょう。羅漢像には誰の作か判らないゆえの謎めいた側面もあります。例えば聖母マリアを想わせる女性らしき羅漢像や、十字架の形を刻んだ錫杖を持つ羅漢像があるといい、当時禁制の隠れキリシタンに関わるものと推測されるのも興味がつきません。

## 幕末に再建、隣り寺の寺宝も大切に継ぐ

**さ** て、ご利益の高さで知られた「開運招福大黒天」を寄進する等、古くから縁のあった薩摩藩島津家の尽力により、嘉永元年(1848)、大円寺はようやく再建されました。明治に入り、廃仏毀釈の嵐も乗り越え、また、廃寺となったお隣り明王院の仏像や墓などと共にその歴史をも引き継いでいます。一つとして同じではない表情の中に、亡くなった近しい人の面影を見つけることが出来ると伝わる石の羅漢さん達。由来は悲しいけれど生き生きと表情豊かで親しみを覚えます。

## 今回の舞台

目黒駅前、大鳥神社方向へと下って行く大通り(目黒通り)は「権之助坂」。一方、坂のはじまりにある三井住友銀行・目黒支店の敷地で左右に分かれる道を、左へ行けば「行人坂」へと向かいます。現在は、江戸の名所と謳われた姿とはだいぶ異なりますが、細く急な坂道に僅かな面影を探してみましょう。

# 行人坂

目黒駅から権之助坂と平行して目黒川へと下る急な坂道。

# 大円寺

歴史を秘め、行人坂の途中にひっそりと佇む寺。松林山大円寺は、寺の縁起によれば江戸初期の元和年間(1615~23)頃に、奥州湯殿山の修験僧大海法印が、大日如来を本尊とする修験道場を開いたのが始まりといえます。急坂の途中にある境内には、釈迦堂、本堂、阿弥陀堂が配され、「清涼寺式釈迦如来像(重文指定)」「開運招福大黒天(山の手七福神)」「十一面観音像」「来迎阿弥陀三尊像」などを安置しています。また最も目を引くのは左手の崖一面に並ぶ石の「五百羅漢像」。数奇な歴史やいわれを秘めた江戸の風情残す寺(史跡)です。



【行人坂】・【大円寺】目黒区下目黒1-8-5/JR・東急目黒線・東京メトロ・都営地下鉄「目黒駅」3分



# 行人坂を訪ねて



## 今は一本奥の静かな坂道「行人坂」

**今**でこそ、目黒駅前メインストリート  
の座を「権之助坂」に譲った「行人坂」。  
権之助坂の裏道のようなこの坂は、登りのみ  
の一方通行といった具合で、ゆるやかに曲が  
りながら両側をビルの壁に挟まれて下りま  
す。道筋は、どこか風情があって、好んでこの  
道を歩いて駅へと向かう人もいます。坂の途中  
には有名芸能プロダクションや目黒雅叙園に加  
え、行人坂大火の火元になったと言われる大円寺  
もあります。

## 「行人」のいた坂だから…

**坂**の名前の「行人」とは、広辞苑によれば  
「行者」「修験者」と意味を同じくしま

す。自らに苦行を課すことで神仏に奉仕する  
といった修行をする人々のことです。

江戸の初め、湯殿山（山形県）の修験僧が、  
当時たいそう急峻だったこの坂の途中に大  
日如来堂を建てました。そこで日夜修行に励  
んでいた行人たちの姿が、いつしかこの坂の  
名となったといえます。

また、そうした一方で、この坂は江戸へと  
通じる交通の要衝でもありました。かつては  
たくさんの物資・産物をはじめ、多くの旅人  
が行き来する様子が見られたことでしょう。  
それがこうも険しくては、と後に菅沼権之助  
によって権之助坂が開かれる言い伝えへと  
つながります。

## 今に伝わる往時の面影

# 描かれた江戸名所【行人坂】

江戸の頃、庶民の間ではさまざまご利益を求めて江戸近郊の社寺  
や霊山へ参拝することが、旅行のようなちょっとしたブームになって  
おり、その道筋はたいへん賑わったといえます。

目黒不動尊への参拝もそのひとつ。「めぐろのお不動さん」へ家族  
や仲間と連れ立ってお参りに行く道すがら、行人坂は行く人にとつ  
ても帰る人にとつても楽しい場所。西向きの坂の上から向こう、堂々  
とそびえる富士山の姿が見られました。目黒屈指の富士見の名所、行  
人坂には江戸の頃、「富士見茶屋」という茶店がありました。『江戸名  
所図会』や『江戸自慢三十六興』などには、高台に用意された縁台で  
一服する旅人や、繁盛する茶店の様子が描かれています。

また、この一帯は江戸の中頃まで「夕日の岡」とも呼ばれていました。  
秋などは、見事な夕景に浮かび上がる富士と、紅葉が相まって、旅人  
が思わずため息をもらすような景観があったことでしょう。

坂を下った目黒川には石造りの「太鼓橋」があり、このたもとにも「正  
月屋」というおしるこ屋さんや、「太鼓鰻」など名物店がありました。

## 発見！めぐろ

【行人坂】で  
生まれた  
日本初の  
映画撮影所。



吉沢商店目黒撮影所  
ガラスステージでの撮影風景



建設中の吉沢商店目黒撮影所  
ガラスステージ外観

## 吉沢商店目黒撮影所

明治41年、行人坂のそば  
（杉野服飾大学近く）に日本  
初の映画撮影所が誕生しま  
した。アメリカ外遊で映画  
づくりに興味を持った吉沢  
商店・河浦謙一氏が、エジ  
ソnstudioを参考に、天気  
が悪くても撮影できる、ガ  
ラス張りの「ガラス・ステ  
ージ」を完成させました。

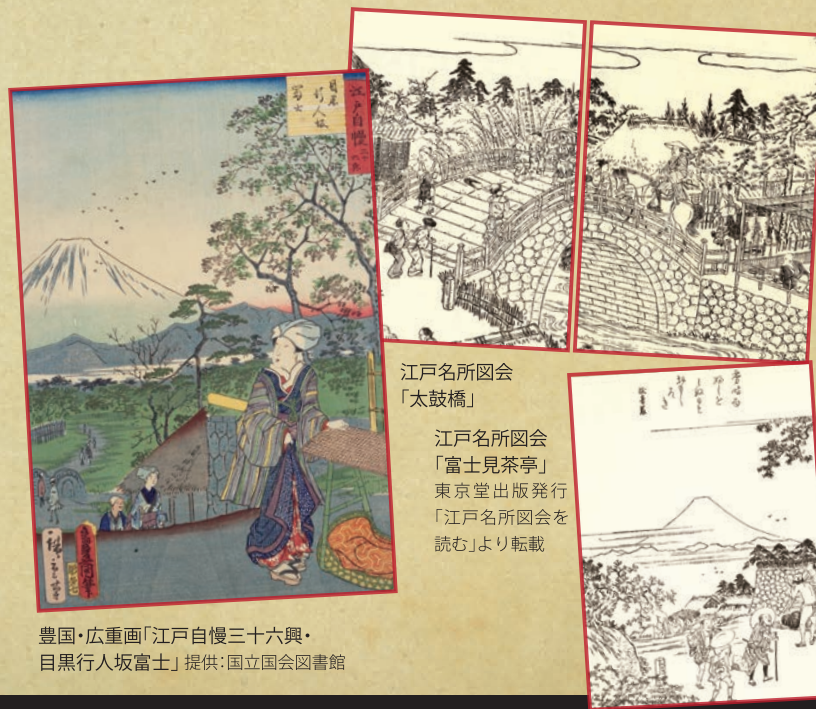
（写真提供：太田市立新田図書館）

## 関連した展示物を見に行こう！

# めぐろ歴史資料館

目黒区という街が、どのような地形的特色の上にあ  
り、そこでどのような時の移り変わりを経て現在へと  
至るのか。旧石器時代をスタートに、中世、近世、近代、  
そして現代までを展示。資料閲覧室などでより深く目  
黒の歴史を調べることもできます。

【めぐろ歴史資料館】中目黒3-6-10 ☎(3715)3571 交通/東急東横線・  
東京メトロ日比谷線「中目黒」駅下車徒歩12分



江戸名所図会  
「太鼓橋」

江戸名所図会  
「富士見茶亭」  
東京堂出版発行  
「江戸名所図会を  
読む」より転載

豊国・広重画「江戸自慢三十六興」  
目黒行人坂富士 提供：国立国会図書館



大円寺にまつわるもう一つの逸話

## 八百屋お七と吉三の物語

大火とは別に、大円寺にはもうひとつ火事にまつわる逸話があります。それは、この寺に眠る西運という僧に縁があります。この人こそ、かの有名な八百屋お七の恋人といわれた吉三であり、お七の死後剃髪し、供養に努めた人物なのです。

歌舞伎・浄瑠璃など様々な物語に取り上げられた八百屋お七の事件は、天和三年(1683)に起こりました。本郷駒込町に住む八百屋の娘お七は、火事で避難した先の円林寺の小姓・吉三と恋仲になりました。しかし短い避難生活のこと、やがて離ればなれになったお七は吉三会いたさゆえに乱心し、自宅に火を放ったということです。大事には至らなかったものの、当時放火は火あぶりの大罪。かぞえて16(今の15歳)だったというお七は江戸市中引き廻しの上、大井・鈴が森で火あぶりの刑になりました。

その後、恋人吉三は剃髪し、西運と名を改めて、お七の菩提を弔うために念仏を唱えながら諸国巡礼の旅に出ます。江戸に戻った西運は、大円寺の坂下にあった明王院に身を寄せながら、目黒不動尊と浅草浅草寺へ隔夜日参一万日という念仏行を開始します。雨の日も雪の日も休むことなく、鉦をたたき念仏を唱えながら、二十七年(一説には四十年とも)もの年月続けられた日参の間に集めた浄財で、西運は行人坂を石畳に改修し、目黒川に雁歯橋を架け、明王院境内に常念仏堂を建立しました。

明王院は明治13年に廃寺となり、仏像などはすべて隣寺の大円寺に引き取られました。現在、大円寺には西運の位牌、墓、念仏鉦が大切に保管されています。また、阿弥陀堂内には、西運が常念仏堂を建立した際に本尊として祀ったという「来迎阿弥陀三尊像」と「お七地蔵」、その胎内より骨と血脈(師から弟子へ、仏教の教典が伝えられたことを示す系譜)が発見されたという「西運上人像」が、安置されています。また壁際には、西運が浅草への日参の間に出会った遊女たちや吉原の人々の名を記した大数珠「百万遍の数珠」がかけられています。そしてお堂の前には、風雪吹きすさぶ中を念仏行を続ける西運の姿が刻まれた碑が立ち、江戸の昔から語り継がれた恋物語の名残を今に留めています。

今号の参考文献「史蹟大圓寺物語」「八百屋お七・小姓の吉三物語」稲葉勤著ほか

発見!めぐろ  
ゆかりの人  
西運



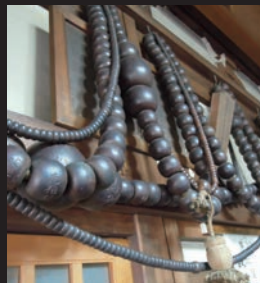
来迎阿弥陀三尊像とお七地蔵



西運上人の碑



西運上人像



百万遍の数珠

## めぐろ観光講座レポート

### 第12回「まち歩きと目黒消防署の見学」

去る2月26日(火)、第12回めぐろ観光講座「まち歩きと目黒消防署の見学」が開催されました。天気は晴れ、気温9度の肌寒の中、最終的に19名のお客様にご参加いただきました。

9時20分、「まち歩き」がスタート。今回のコースは、祐天寺駅を出発し、祐天寺→油面地藏通り商店街(高地藏尊)→目黒消防署→御門屋本店→林試の森公園を巡る、距離にして約3kmのまち歩き。ガイドは、当協会ボランティアガイドの井上さんと光行さん。

目黒区には、面白い地名が幾つかありますね。由来を知るともっと面白いもので、地元への親しみもより湧いてくるというものです。例えば、今回歩いた「油面(あぶらめん)」。江戸時代の中頃から、この辺り一帯では菜種の栽培が盛んとなり、絞った菜種油は、芝・増上寺や祐天寺の灯明用として使われていたそうです。この油を奉納する事によって、租税が免除されていたことから、「油免」が「油面」になったとか。

また、今回の「まち歩き」は、企業・施設訪問をセットにした当協会独自のものとして、目黒消防署の見学も行いました。目黒消防署では、特別にレスキュー隊による訓練の様子の見学と、ハシゴ車の乗車体験をさせていただきました。消防署職員の方々が、日頃より厳しい訓練を重ね、火事や災害の時には、現場に駆けつけてくださることで、私たちの暮らしは守られ、安心・安全に生活することができるかと

めぐろ観光講座は、  
歴史、産業、文化、自然  
を通じて、魅力的な  
めぐろを再発見する  
活動です。

感するものでした。

目黒消防署の後に  
おじゃまいたしました御門屋  
さんは、今や「揚げまんじゅう」で有名ですが、  
元々は「お煎餅」の販売から始まりました。お  
煎餅でも「揚げる」にこだわり、そのヒントから  
「揚げまんじゅう」が誕生したそうです。目  
黒のお土産にいかがでしょうか?



まち歩きでは、祐天寺の境内にも立ち寄りしました



目黒土産の定番  
揚げまんじゅうの  
御門屋本店



日頃の訓練の賜物!  
レスキュー隊による  
消防訓練